

<季語の蘊蓄(うんちく)> ていれぎ おおばたねつけばな・・・ クレソンに似た「あぶらな科の草」で水辺に自生する。愛媛県の名産で料理のつけあわせ に使う。

高井の里のていれぎの・・・と伊予節(いよぶし・・・民謡)にも歌われている。地方の季語が全国区になった例。ちなみに「肱川嵐(ひじかわあらし)」は全国区になっていない。

<俳句豆知識>

俳句は 17 音字しかないか不要なものは省略したい。

見れば今まさに春だと我思ふ・・・俳句は「今」を詠うものだから「今」は不要。俳句は見て描くものだから「見れば」は不要。俳句は自分が中心だから「我」は不要 俳句は「思う」ことを書くのだから「思う」は不要。「まさに」は 修飾だから 避ける・・・と「春」だけが残った。 不要なものを避けることで ほかのことが言える

<名句鑑賞>

碑の文字を蟻より早く読み下ろす 砂田八重

この句の季語は「蟻」 蟻は夏の季語 である。作者はなにを句として残そうと思ったのだろうか。蟻の動きが遅いということなのか 作者が早く読むことができることを言いたかったのだろうか。蟻は碑文の最初から最後まで移動するとして人が読むほうが早いのだとすれば 碑文の文字が大きい。または長文ということになる。しかし、それでき単なる説明になる。出来事の報告になる。報告は「詩」ではない。石碑は真夏の太陽に熱せられて熱い。蟻の動きが遅いのである。暑さに耐えている「蟻」の生命力を賛美しているのだ。

<滑稽の作法>

残雪の左の脚が抜けました 健

ご承知のように残雪は春の季語。残雪を歩くとすっぽり 脚が潜ってしまう。左の脚を抜いた瞬間を描いたのだがこの時点で右脚は深く潜ってしまったので・・・作者にはお気の毒だが可笑しい風景である。

<「滑稽俳句協会報」から>

おしおきや石乗せられて大根漬 高田敏男

漬物の大根脚のダイエット

<八木健の 365 句> 尺蠖やメートル法の世を生きる

<山口誓子の 365 句> 大和また新たなる国田を鋤けば

<話し方講座>

去る3月31日に 全日空ホテルで 松前町町長 白石勝也氏の県知事表彰祝賀会が開かれた。200人あまりが参集した。八木健が祝辞を述べるメインの役を仰せつかった。

白石氏は元 NHK きんきメディアプランの四国本部長。俳句王国の元締め・・・である。

私は当時 白石氏の部下であった。身内が身内を「おめでとうございます」などと祝うのは如何なものかと 私は「こき下ろす」祝い方をした。

「えー今私が登壇するときに上手(かみて)から出るべきか 下手(しもて)から一瞬迷いました。上手から出るのは偉い人です。私が 上手から出ようとしたら 白石さんが 睨んだのです。未だに上司のつもりでいるんですね。

今、白石さんは時局講演の終わりの部分で気になる言葉遣いとして「空港や航空機内」の案内について述べられましたが 白石さんは 元、放送記者です・・・私はアナウンサー・・・言葉のことは アナウンサーに任せてほしい。

「 便は定刻通りの出発です・・・というが定刻通ならわざわざ言う必要はない」・・・と指摘されましたが、遅れるのが当たり前になっている・・・だから定刻通りをアナウンスしたのです。そこがわからんといかん。

「これより先トイレはご遠慮ください・・・あれはとんでもない。トイレをご利用になりたい方にはサポートします・・・というべき」と言われましたが、それでは面白くも、なんともない・・・愛媛は紙製品の産地です。「愛媛特産の紙おむつをお持ちします」というべきなんです。

また・・・白石さんは 公用車を廃止して自転車通勤をして話題になりました。あれは点数をあげるため・・・ということに、町民は気づいていない。本当は「前夜のアルコールを抜くため」にやっているんです。大規模ショッピングセンター「エミフル」を誘致して松前町を活性化させたといわれますが 奥さんがショッピングが好きなので、手近にブランド品を買えるようにと、きわめて個人的な動機がちらつくのです。そういう人間が知事表彰を受けるのは如何なものかと・思っているのです。

実はスピーチの終わりの部分は「虎造節」で締めた・・・

伊予の松前の町長の白石勝也は いい男 いつもニコニコ エミフルで・・・。

愚陀佛庵通信 10-4-05

<季語の蒔蓄(うんちく)> 屋根替 やねがえ・・・葺替え ともいうが死滅する季語である。雪国では 積雪や風雪のため冬の間に傷んだ草葺の屋根の修理や新しいものに替える作業を雪解けを待って行う、雪のない地方では新葺の登場する秋に行う。

< 俳句豆知識 >

生涯の一句・・・とは 俳人が生涯に一句でもよいから「後世に残る句」をつくりたいという願望である。俳句の結社とは 俳句のグループのことであるが、主な結社は全国に 800、あまりある。その主宰 100 人の代表句を直筆の色紙で展示しているところがある。

八木健が館長をしている 松山市の萬翠荘である。

100 句を一時間ほどかけて読む方も多い。

< 名句鑑賞 >

あるときは船より高き卯浪かな 鈴木真砂女

卯浪とは陰暦四月頃に立つ川や海の波のこと 卯の花が咲く頃の波が語源ともされる。掲出句は海の波で作者は船に乗っている。小船だから波のうねりの間に入ると船は谷底に沈むようになる。俳句は自然を詠んで人生を重ねる。あるときは・・・船より高き・・・というから別のあるときは船より低い卯波である。浪を詠んでいるが浪は世間で船が自身である。人間いいときもあり、悪いときもあるのだ。

< 滑稽の作法 >

月光に解く鍵束の知恵の輪を 健

知恵の輪のように鍵がたくさんついているのが可笑しい。当人はその可笑しさを通常は自覚していないのだ。しかし、肝心の鍵が見つからないので・・・知恵の輪だと思ったのである。滑稽句はこのように自身を客観的に眺めることでも生まれるのである。

< 「滑稽俳句協会報」から >

蚯蚓出て五分の魂一寸に 永島董王

二寸までのびたる蚯蚓地を這へる

< 八木健の 365 句 > 男ものハンカチ女の足拭ふ

< 山口誓子の 365 句 > 燈台は光の館桜の夜

愚陀佛庵通信 10-4-06

< 季語の蒔蓄(うんちく) > 石鱈玉 しゃぼんだま・・・と読む。春の季語である。歳時記を読む楽しみのひとつは、知らなかったことに会うこと。石鱈玉は 文字通り 石鱈を溶かした液を使うが「無患子(むくろじ)」の実をせんじた液を使った・・・とも。

<俳句豆知識>

「うまい」「へた」という評価は俳句の場合 スポーツや音楽と異なる。俳句は「うまい俳句」「上手な俳句」は 多くの場合 読者に感動を与えることはない。俳句らしい俳句はうまい俳句で俳句らしい言葉をならべてある。多くは手垢のついた言葉だから新鮮さもない。しかし、一見「へた」に見える俳句は読者の心に残るのである。それが「良い俳句」である。だから俳句がお上手・・・と言われたくない。良い俳句をつくる・・・と言われたい。

<名句鑑賞>

羅（うすもの）や人悲します恋をして 鈴木真砂女

真砂女は 道ならぬ恋をした俳人で そのことを隠すことはなかった。羅は薄物である。下に着ているものが透けて見えるので、「羅」を着ていると 自身の秘密まで見透かされたような気になるものである。

「とりあわせ」の句は季語と共通する「なにか」が必要だが・・・真砂女はウスモノを着て人を悲しませる恋をしたことに・・・自分を偽ることなく生きたという納得の心境だから、平然としていられたのである。

<滑稽の作法>

人間を蹴 人間を蹴る馬のみて天高し 健

「天高し」というプラスイメージの季語に取り合わせて「人間を蹴る」というマイナスイメージ。そこに意外性の滑稽が生まれるのである。

<「滑稽俳句協会報」から>

はた目には仲睦まじく青き踏む 松田吉憲

別居から離婚の予定青き踏む

<八木健の 365 句> 漂へる電気くらげに部品かな

<山口誓子の 365 句> 落花一片吾へと強く衝き来る

愚陀佛庵通信 10-4-07

<季語の蘊蓄(うんちく)> 糸遊 いとゆう・・・春の季語である。

陽炎(かげろう)の傍題。遊糸(ゆうし)、野馬(かげろう)とも書く。春の日、強い日差しのために空気に粗密がぶきてゆらゆらと物のかたちがゆらいで見える現象のこと。

かげろうと字に書くやうにかげろへる 富安風生

<俳句豆知識>

俳句にとって大切なことは 独自性である。個性である。誰かがつくっていたのと同じような句をつくるのは情けない。オリジナリティーがなければならない。

そのためには自身だけが見たものや、自身のあたまに浮かんだことを書くことである。歳時記の例句を読んでからつくったのでは 独自性のある句にはならない。

例句に影響されてしまうからである。

<名句鑑賞>

大いなる新樹のどこか騒ぎをり 高浜虚子

騒ぐは・・樹木を擬人化したもの。声を出しているわけではない。葉擦れの音であろう。

どこか、というのは具体的でない。大樹の梢に近い部分か、茂りの奥の部分だろう。

作者には、そのように見えた。それほどの大樹が醸し出すなにかを詠んだ。

<滑稽の作法> 【しまひには】

しまひにはからまれてゐる初電話 健

滑稽句の作り方として「裏切り」の構成をと説明してきたが、とりあわせるふたつのもののミスマッチがその方法である。この句の場合には経過によって生じたミスマッチ 裏切りである。

<「滑稽俳句協会報」から>

数の子を食めばこめかみ喜べり 村上美和

コメカミは数の子だとは気付かない

<八木 健の 365 句> しまひには仲直りしてげんげ草

<山口誓子の 365 句> 城を出し落花一片いまもとぶ

愚陀佛庵通信 10-4-08

<季語の蘊蓄(うんちく)> 花まつり・・・春の季語である。

御釈迦さまは4月8日に生まれたとされ、この日を祝って諸寺で行う行事を「仏生会(ぶっしょうえ)」という。花で飾った小さな飯室をつく。それを「花御堂」その中に童形のお釈迦さまを安置して人々は「甘茶」をかける 「灌仏会(かんぶつえ)」と呼ぶ

ぬかづけばわれも善女や仏生会 杉田久女

<俳句豆知識>

前回俳句にとって大切なことは 独自性である。個性である。と述べた。複数の俳人がそれぞれに個性を持つべきだというだけでなく、一人の俳人の複数の作品についても同様である。読者の立場になってみればわかる。同じような句が並んでいる俳句雑誌や句集を読んでも退屈するだけである。だから 同じ俳人が百句つくって同じような句をならべても仕方ない。

一句ごとに新鮮な「なにか」を句にしておくべきなのである。だから句会で「この句は誰の句がすぐにわかる」のは「まずい」のである。

< 名句鑑賞 >

紙魚のあと久しのひの字しの字かな 高浜虚子

紙魚(しみ)は 糊づけをした 書籍、衣服などを食い荒らす昆虫である。ひのかたちが「久し」の「ひ」の字「し」の字 として 久しぶりに取り出した書物などに食いあらしめたかたちを重ねている。

< 滑稽の作法 > 【西瓜撲殺】

西瓜撲殺豪華客船の上甲板 健

豪華客船というプラスイメージを撲殺というなんとも物騒な俗語のマイナスイメージで裏切ったところに滑稽が生じたものである。

< 「滑稽俳句協会報」から >

禁酒から僅酒へ梅にこと寄せて 永井一郎

人間の智恵のひとつになしえずし

< 八木 健の 365 句 > 下萌を踏みホルスタインの割れ蹄

< 山口誓子の 365 句 > 闘牛の尻竹竿で叩かれて

愚陀佛庵通信

10-4-09

< 季語の蘊蓄(うんちく) > 入学 歴史的仮名遣いでは「にふがく」と書く。

小学校から大学[°]までの入学を季語としている。傍題(ぼうだい)は基本的季語につらなるもので、新入生入学児、進学、一年生 などがそれである。

< 俳句豆知識 >

個性 独自性が大切だと・・

言ってもそう簡単にはできませんよ・と言われることが多い。個性とは 題材 表現

の仕方 である。題材は季語集 から選ぶが誰かが使っている季語でかまわない。
場の設定に個性が生きるのである。今であればお花見ですね、公園でいくつものグループ
が 花の宴・・・中にはカラオケを持ち込んでガンガンやっているグループがある。そうい
うマイナスイメージの場を設定してみよう。

カラオケの騒音を背に花の宴

< 名句鑑賞 >

短夜や乳ぜり泣く児を須可捨焉乎 竹下しづの女

須可捨焉乎 ・すてちまおか・・・と読む。非常識である。これを非常識として非難するの
は 俳句を知らない人である。俳句は 瞬間的に脳裏に浮かんだことを描くものであるか
ら・・・。正直な句として賞賛に値するのである。

< 滑稽の作法 > 【薫風】

薫風が基本季語で 風薫る が傍題である。

薫風と言ふべし厩舎から吹くも 健

薫風がプラスイメージ 厩舎から・・・がマイナスイメージである。裏切り構成の例

< 「滑稽俳句協会報」から >

残雪や廃校となり名を成せり 黒田忠一

贅沢な個人授業の終る春

< 八木 健の 365 句 > 怖いものなし蠅叩き手にあれば

< 山口誓子の 365 句 > 苗代にいのち噴かざる朶(もみ)が見ゆ

愚陀佛庵通信 10-4-10

< 季語の蘊蓄(うんちく) > 蝶 旧仮名では 「てふ」

蝶は四季を通じて出現するが春が一番多いので「春」の季語となっている。

春に蝶が多いのは花が多いからである。

春先に見る初めての蝶を「初蝶」他の季節の蝶は「夏の」「冬の」「秋の」とするが、動き
の鈍い冬の蝶を「凍蝶」と呼ぶ・・・

方丈の大庇(ひさし)より春の蝶 高野素十 たかの すじゅう

< 俳句豆知識 >

個性が大切・・・

ということは 他の俳人と異なる「目線」を持つということである。吟行(ぎんこう)と言って俳句仲間と俳句の取材に出かけるが、同じ目線だと同じような句ができてしまう。だから吟行では現地に着いたら はなればなれに ならなければならない。互いに寡黙になることである。そうすれば 自分だけの目線になり個性的な俳句ができる。

< 名句鑑賞 >

浴衣着て少女の乳房高からず 高浜虚子

少女の乳房のふくらみを発見したのである。「高からず」がポイントである。一句のどこかに新鮮な表現があれば句はいきいきとする。「高からず」と否定しているが俳句は省略が技である。省略された部分を推定することで鑑賞が完成するのである。

「胸が女らしく膨らんでいます。しかし・・・」が省略された部分である。

< 滑稽の作法 > 【百千鳥】ももちどり

声のほか糞も降らせる百千鳥 健

百千鳥は特定の鳥の名前ではなく、いろいろな鳥が・・・ということである。声を降らせるのは当然だが「糞」も降らせる・・・という発見である。同時に「百千鳥」というプラスイメージを裏切った構成である。

< 「滑稽俳句協会報」から >

秒針をちぎつてしまふ時計草 (工藤泰子)

デジタルの世にアナログの時計草 ですな

< 八木 健の 365 句 > 蝉殻をぬぎつつあればセミヌード

< 山口誓子の 365 句 > 天耕の峯に達して峯を越す

愚陀佛庵通信

10-4-11

< 季語の蘊蓄(うんちく) > 日永(ひなが) 遅日(ちじつ)・・・ともに春の季語

日永と遅日は同じことだが 日永は昼の時間が長くなったことをいい。遅日は日が暮れるのが遅くなったことを言う。

永き日を欠伸うつして別れゆく 夏目漱石

< 俳句豆知識 >

< 名句鑑賞 >

白牡丹といふといへども 紅ほのか 高浜虚子

「いふといへども」・・・「しかし」と同じ意味だが 長々しく言うことでも「格調」が生

まれた。

<滑稽の作法> 【カレー派】

カレー派と寿司派でもめる子どもの日 健

俳句はありのままを描く。よく見て描く。写生で描く。そうすれば可笑しい句ができる。なぜ可笑しいのか。それは観念を裏切るからである。子どもの日はみんな御利巧にしている・・・と思いこんでいるからである

<「滑稽俳句協会報」>

憧れの人に夏風邪もらひ度し (佐藤古城)

口づけのときには外すマスクかな などと

<八木 健の 365 句> 春愁の鏡の中の吾を叱る

<山口誓子の 365 句> 春潮やわが総身に船の汽笛(ふえ)

本日 肱川町で 俳句大会 俳句のつくり方・・・という講演をする。昨日は萬翠荘に視覚障害の方が 43 人 来館された。展示中の 100 人の主宰の代表句を読んで解説をさせていただいた。アドリブ名句鑑賞である。

愚陀佛庵通信

10-4-12

<季語の蘊蓄(うんちく)> 竹の秋 たけのあき・・・春の季語

春三四月になると竹の葉が黄ばんでくる。竹の子に養分を取られてしまうからである。これを「竹の秋」という。夏の間に葉が散って秋になると青々とした葉となる。これを「竹の春」と呼び秋の季語としている。

夕風の吹くともなしに竹の秋 永井荷風

<俳句豆知識>

吟行(ぎんこう)・・・して俳句をその場で完成させるのは 吟行に続いて俳句会が開かれる場合である。句会が開かれない場合は句に 仕上げる必要はない。ある著名 俳人の吟行に同行したことがある。著名俳人は 俳句手帳をとりだして単語をメモしていた。

たとえば・・・竹の葉ずれ 根の盛り上がり 太陽の色 たけの匂い

などと書いて後日、句に仕上げる 一晩に 30 句ぐらい・一気につくる。

メモをしたのは俳句にするための材料であるが瞬間に受けたインパクトである。

物の見えたる光、未だ心に消えざる中にいひとむべし・・・芭蕉の言葉である。

< 名句鑑賞 >

分け入つても分け入つても青い山・・・種田山頭火

六六五 合計すれば17音字である。山頭火の句を「あれは俳句じゃない」という俳人が多い。青い山・・・「青い」が夏の季語の雰囲気があるが季語ではない。

山頭火は心に浮かんだことを素直に表現することで結果的に定型を無視することになった。

< 滑稽の作法 > 【良夜】

良夜なり男三人争へる 健

良夜は十五夜 十三夜を言う。そのプラスイメージを「争い」というマイナスイメージで裏切ったのであ。

< 「滑稽俳句協会報」から >

売る時は外して香具師のサングラス (清水純一)

偽札を見分けられないサングラス だもんなあ

< 八木 健の 365 句 > 食堂に大書されをり初かつを

< 山口誓子の 365 句 > 遅れ咲きいまの落花に加はらず

愚陀佛庵通信

10-4-13

< 季語の蘊蓄(うんちく) > 啄木忌 たくぼくき・・・石川啄木 4月13日

詩人であり歌人であり小説も書いた。病苦と貧困の生活。明治45年 27歳で没
歌集「一握の砂」「悲しき玩具」は、独自の生活詠が広く共感を得て愛唱されている。

靴裏に都会は固し啄木忌 秋元不死男

< 俳句豆知識 >

オリジナリティー(独自性)

オリジナリティーは「見たもの」を「見たまま」に描いても生まれない。作者がなにを感じたか 何を思ったのか 読者に伝わる「作者の感受性」がそこになければならない
たとえば・・・落蝉・・・仰向けに干からびてゐる油蝉 これは見たままである。

いろいろな俳人が描いているだろう。そこで、作者が感じたことを書く

自らを死体遺棄して油蝉 健・・・とすれば 独自性が生まれる

< 名句鑑賞 >

わが鳴らす麦笛びびと手にこたへ 中村汀女

手にこたへ・・・「びび」は耳に感じる音のはずだが 作者は 「びび」を手に感じたのである。常識があるとこんなことは書かない。麦笛の予想以上に強い振動に作者が驚いたということがわかる

<滑稽の作法> 【夜長】

相談を受けて夜長を使ひきる 健

これも裏切りの構成である。夜長はしみじみと秋の夜を楽しむ風情がある。プラスイメージ。それをつまらぬ相談を受けたために無駄にしてしまった後悔マイナスイメージである。

<「滑稽俳句協会報」から>

幾人か落したき人蟻地獄 (松田吉憲)

虫の名も穴の名前も蟻地獄?

<八木 健の 365 句> 巢の燕最大限に口あける

<山口誓子の 365 句> 青年と腹這ふ前に菫濃し

愚陀佛庵通信

10-4-14 日

<季語の蘊蓄(うんちく)> 風光る・・・春の季語 風薫るは五月の季語
晴れた春の日に風が吹き渡るとあたりの風景がまぶしく輝き、あたたかも風が光っているように見えること。

地玉子の殻のたしかさ 風光る 鈴木真砂女

<俳句豆知識>

新聞の俳句欄をスクラップしている方がいるが・はっきり言って玉石混淆であるからスクラップするほどのものではない・・・では どのように読むのか・・・

独自性のある句を探して読むのである。

いくつか 句の中でもっとも独自性のある句を選んで をつけるのである。

そして何処に独自性があるのかを誰かに説明できるようにするのである。

作家は常に良い批評家でなければならない。

<名句鑑賞>

叩かれて昼の蚊を吐く木魚かな 夏目漱石

夏目漱石は 滑稽句をたくさんつくっている。この句はいちばんの滑稽句である。

おかしいとも滑稽とも書かないで 読者が可笑しいを感じる・写生句なのである。

<滑稽の作法> 【揚雲雀】

少年のゆびに撃たるる揚雲雀 健

雲雀はその声を愛でるのが季語の本位である。掲出句は 指をピストルのかたちにして撃つ真似をするという・・・裏切りである。

<「滑稽俳句協会報」から>

平日の花見増えたる不況かな (丸山紘一)
週末になればだれもが花疲れ ですね

<八木 健の 365 句> とまり方知らぬ竹馬前進す

<山口誓子の 365 句> 妙齡の息しづかにて春の昼

愚陀佛庵通信

10-4-15

<季語の蘊蓄(うんちく)> 花曇 はなくもり・・・桜の咲く頃は天気が変わりやすく曇天が多くすっきりしない天気をいう。花の雲 は満開の桜が雲のように見えることをいう

<俳句豆知識>

「俳句」と名づけたのは 子規とその仲間であった・・・それまで「発句」と呼んでいたものを「俳句」と名づけた事情を内藤鳴雪が 明治 42 年に出版の「俳句作法」に書いている。俳句といふ名は何故出来たかといふと、是は正岡子規が殆ど始めたといつても好いので、其の由来はかうである。それは、已に連俳の第一句たる実を失った以上、発句と称へるよりは寧ろ俳諧と称えた関係から、俳句といふ方が穏当であろうといふので、今より十数年前、子規始め吾々の仲間、俳句々々と言ひならわした。今では全国に普及して宗匠門下以外では、一般に俳句とのみいって、発句といふ名は知らぬ位にさへもなつてゐる。

<名句鑑賞>

万緑(ばんりょく)の中や吾子(あこ)の齒生え初むる 中村草田男
季語「万緑」は草田男のこの句から生まれた。中国の王安石の詩の一節に「万緑叢中紅一点」とあるのが出典とされる。「すべてが緑」という生命感の強い季語である。句の意味は 見渡す限りの緑の中にいる高揚した気持ちを詠っている。折しも子の歯が生え始めた。いのち輝く季節である。

<滑稽の作法> 【濡れ場】

濡れ場なりプールの更衣室もまた 健

「濡れ場」は 舞台用語(歌舞伎)で、男女の絡みの場面であるが プールの更衣室だから「水に濡れた」と、常識を裏切っている句である

<「滑稽俳句協会報」から>

春眠の大往生となりにけり（白井道義）

死に方に苦楽のあれば楽が良し

<八木 健の 365 句> 断崖の落花海光浴びゐたる

<山口誓子の 365 句> 遠足の女教師の手に触れたがる

愚陀佛庵通信

10-4-16

<季語の蘊蓄(うんちく)> 暮の春(くれのはる)・・・春が終わろうとしていること。
万物が春の装いを尽くした感じのこと。

「春深し」よりも終わりに近い。同じようなき語に「行く春」があるがこれは詠嘆的。「春惜しむ」は寂しさを込めた季語。「春の暮」は一日春の終わりの・・・夕暮れのこと

<俳句豆知識>

俳句は何のために・・・つくるのか。俳句をつくるたびにそんなことを考えるわけではないが、つくり始めて何年かすると 所属している俳句結社に提出するためだけにつくるようになる。すると義務化してしまつて新鮮味のない、かたちだけの俳句をつくるようになる。そんな時には 原点に立ち返ることが必要である。

俳句は自身の精神の記録である。自分の精神史をつくるためにである。ということ。
何かに感動して「ああ」と叫んだり「ふふふ」と思つたりの「やわらかな心」を用意して一日を言葉でスナップ写真してみることである。

俳句は言葉が先行するのではなく 心や感性が先行しなければならない。

<名句鑑賞>

叩かれて昼の蚊を吐く木魚哉 夏目漱石

夏目漱石の滑稽句の最右翼である。写生で作っているが。発見を生じたということ。
単なる写生は誰でも眼にしたことで新鮮味がない。この句は「可笑しい」を発見したのである。

<滑稽の作法> 【低姿勢】

低姿勢なり合図待つスケーター 健

この句も裏切りである。作り方としては スケーターになってみることに。

低い姿勢でスタートするのがいい。と気づくことである。

そうしてそのスケーターをもうひとつの眼で見ると低姿勢が強調されるのである。

<「滑稽俳句協会報」より>

だれその指図は受けず椿落つ (奥脇弘久)

空いてゐる地面をめざし落椿ですね

<八木 健の 365 句> 孕ませて風ごと被り夏帽子

<山口誓子の 365 句> 近づくとつれ塔重き春の

愚陀佛庵通信

10-4-17

<季語の蘊蓄(うんちく)> 傍題・・ぼうだい

歳時記には 基本的な季語と傍題(ぼうだい)が掲載されている・基本季語は見出しに使われている。たとえば「辛夷 (こぶし)」の項目には「もくれん科の落葉高木 春四月から五月に 木蓮より早く 白い花が咲く ・・とある

こぶし・・「人の拳」に似ているところからこの名がついた。とあり・・続いて。

「傍題」が掲載されている。は たとえば・木筆 山木蓮 やまあららぎ 幣辛夷 姫辛夷 辛夷花 辛夷の花 大辛夷・・と 数題が出ている

<俳句豆知識>

俳句は 毎日つくる・・講演会で 「みなさん月に何句おつくりですか」と問いかける。

「そちらの方・・はい 月に10句 えっ一度におつくりですか

・・それは大変でしょう・・俳句は毎日つくるほうが簡単なんですよ

月に一度・ではその都度・俳句モードに頭脳の回路を変える必要がありますから

一日一句必ずつくれば もう簡単。えっ私ですか 一日に10句か20句ぐらいですね。

それに・・ひと様の添削が何句もありますから・・

添削? パソコンが眼に良くないので控えています が 講師をしている愛媛大学の俳句学 愛媛医療専門大学の「人間と文学」の学生さんの句はどうしても添削しなければならぬので・・ええ 楽しいです」

<名句鑑賞>

空蝉の一太刀浴びし背中かな 野見山朱鳥

俳句は一箇所だけ 誰も使わぬ表現ができれば それだけで後世に残る。

一太刀浴びし・・これで後世に残る句となった。作者はおそらく 対象を凝視してもっとも強く印象をうけたことを表現しようと言葉を探したのであろう。

「私も同じような表現を考えてはいたのですが・・」とある俳人 コロンブスのたまごである。

<滑稽の作法> 【酔芙蓉】すいふよう

酒断ちの地蔵の脇の酔芙蓉 健

これは実景である。NHKで俳句番組の司会を担当していた頃 高知県の国分寺からの放送があり、事前に出演者が吟行した。境内に地蔵があって その脇に酔芙蓉・・・酒断ちの地蔵の脇にあるから可笑的・・・これも可笑的の「発見」である。

そのときに 寺の前が「そば」の花盛りで・・・女性の俳人がいた・・・そこで

「そばかすの女(ひと)立つ蕎麦の花のそば・・・とつくった。

「酔芙蓉」は「芙蓉」の品種の一つで、朝に咲いた白い花が、昼には赤みをさし、夕には赤く染まることから「酔芙蓉」と呼ばれ、その日のうちに散る一日花。 ...

<「滑稽俳句協会報」より>

女難の相なしといはれし業平忌 (有吉堅二)

最大の女難が今のカミサンで・・・ですか

<八木 健の365句> 散るさくら一途に先をあらそへる

<山口誓子の365句> 開け置きし玻璃(はり)戸直ちに蝶を見る

愚陀佛庵通信

10-4-18

<季語の蒔蓄(うんちく)> 湯治舟・・・とうじぶね (春) ほとんど誰も知らない季語・・・別府温泉で、家族や知人が小船に食料、日用品を積み込んで港に係留し、船から温泉に通う・・・というものである。

<俳句豆知識>

昨日は・・・俳句は毎日つくとよろしい・・・てなことを書きました。

毎日つくって、それをどうするか。

一日一句つくって月に30句。そこで「自選」すればよろしい。 良いと思う句を選ぶ。

五句ほど選んで別のノートに書き写す。

五句が12か月で60句になる。10年で600句となる。

それから350句ほどを選んで句集にする。

一日に一句は必ずできるものである。

10年なんて気の長いこと。大丈夫 10年は「あっ」という間にやってくる。

ちなみに私は七年連続で句集をだした。

いまでも毎年出せるだけの句数はあるが・・・忙しくて・・・。

< 名句鑑賞 >

初夏の乳房の筋の青さかな 野村喜舟

乳房は はちきれんばかりに・・・色白で透き通るほどの美しさ。

乳房には血管が浮き出ている、その筋は青い 俳句は発見である。若い母親が赤ちゃんに乳房を含ませている。作者は 妻の傍らに座して俳句でも考えていたのであろう。

この乳房が「妻」のものでないとすると話はややこしくなる

< 滑稽の作法 > 【秋天】

クレーンのびる秋天の途中まで 健

俳句の手法は大方 ズームインである。天・地・人・・・でつくる

秋天やクレーンのばす作業員

という具合に・・・しかし、これでは当たり前の手法で新鮮味がない。

だからズームバックしてみよう。これでこそ 秋天壮大が伝わるのである。

滑稽句は俳句の従来手法を転換してみるとできるのかも・・・。

< 「滑稽俳句協会報」より >

開花日は二日後桜力んでる (池田無了)

俳人も思はず力み一句かな・・・ですね

< 八木 健の 365 句 > 滝音を離れ俗世の人となる

< 山口誓子の 365 句 > 春潮を家の畳に立ち眺む

愚陀佛庵通信

10-4-19

< 季語の蘊蓄(うんちく) > 歳時記をめくっていたら「ビニールトンネル (春)」が出てきた。夏の野菜用のビニールの覆いである。季語になるほどのインパクトがあったと思われる。なかには・・・語呂が悪くて俳句にしたら具合悪いだらうと思われる季語もある。たとえば「柿の人工授粉」・・・しかし、柿に人工授粉するなんて知らなかったね

< 俳句豆知識 >

文芸掲載詐欺・・・

一昨日・・・テレビニュースで「あなたの短歌を文芸誌に掲載します」と云って法外な金をとる・・・主として老人が狙われる・・・と放送していた。

10年以上前からこういうのが流行だした。俳句雑誌や俳句結社の名簿から電話番号を割り出して・・・こういうのを仕事にしている連中がいる。私のところにも頻繁にかかってくる。私の対応の仕方は・・・

「先生の作品は素晴らしいです。感動しました。是非紹介させてください。私どもは産経新聞に掲載しています」

「お金がかかりますか」

「はい、やはりご協力いただきませんか・・・三句2万円です」

「下さるんですか」

「ご冗談を・・・」くれぐれもご注意くださいね

<名句鑑賞>

筍の毛皮に深く刃を入れて 橋本美代子

「毛皮」は冬の季語だがこの場合はたけのこの皮が「毛皮のようだ」という意味で使うのだから季語の重複にはならない。しかし、「・・・のやう」とか「如く」とせずに断定している。これがこの句のポイントである。筍を見ていたら毛皮を着ていることに気づいたのである。

<滑稽の作法> 【キャンプ場】

に灯りキャンプ場 健

キャンプが夏の季語である。いろいろなかたちのテントキャンプ場・・・と作ったのだがこれでは昼夜の区別がない。いろいろなかたちに灯りキャンプ場・・・としたが「いろいろなかたち」は説明である。結局・・・とした。見たままを描くと意外や意外・・・面白くなる。

<「滑稽俳句協会報」より>

夏場所や天敵たらず土俵入り (桜井宇久夫)

天敵や朝青龍にうつちやられ

<八木 健の 365 句> 梅の園そぞろそぞろと歩きけり

<山口誓子の 365 句> 泣き濡るる眼にとまらむと蜂来る

愚陀佛庵通信

10-4-20

<季語の蒔蓄(うんちく)> 佐保姫(さおひめ・春)と竜田姫(たつたひめ・秋)

佐保姫は春の野山の造花をつかさどる女神のこと。奈良の都の東・大和の国 佐保の里に
いる春の女神。竜田姫は大和の国・竜田にまつる秋の女神。

古来和歌に詠まれ・・・俳句にも・

佐保姫のたぶさの風か少しづゝ 乙二

< 俳句豆知識 >

第二芸術論・・・昭和 21 年の 9 月、桑原武夫が雑誌「世界」に発表したもので「俳句が芸術なんておこがましい。第 2 芸術だ」とした。理由として結社の閉鎖性、旧態依然たる指導の仕方、などをあげ、とりわけ、有名俳人の句と鉄道雑誌に掲載された投稿句をまぜて無記名でならべてみれば、どれが誰の句かわからない、虚子、草田男 秋櫻子 波郷・錚々たる面々の作品だが・・・。

「これを芸術なんて言うのはナンセンスだ」といったのです。俳人たちの殆どは沈黙したし、俳句界の最高峰にいた虚子にいたっては「俳句は第 20 芸術だと思ってたから第 2 芸術なら 18 階級特進だ」とはぐらかした。この続きは明日の本欄にて

< 名句鑑賞 >

星屑や鬱然として夜の新樹 日野草城 ひのそうじょう
新樹・プラスイメージ 鬱然・マイナスイメージ のとりあわせ。この句の切れは「星屑」にあり、星空の輝きを謡っている。「鬱然とした夜の新樹」の句末でも切れているが、この句では満天の星の輝きが優先する。

< 滑稽の作法 > 【凹凸】

凹凸の凹に翳ある春の泥 健
おうとつのおうに・・・凹凸は象形文字。昨日の と同じく視覚的な表現の可笑しさ。
なんということのない・・・単なる描写であるが、そこに読者が何を感じるか すべてが凹凸という・・・世の中の仕組を滑稽に感じてくれるといいのだが。

< 「滑稽俳句協会報」より >

赤信号を突つ走るつばめかな (佐治洋一)
つばくらめ赤信号を喉につけ・・・ですから

< 八木 健の 365 句 > すかんぼやいたずら小僧ばかりみて

< 山口誓子の 365 句 > 灌木視せし虎杖がさらに長け

<季語の蘊蓄(うんちく)> 三春(さんしゅん)・・・歳時記で季語を調べると「三」と書いてあるときがある。三春(さんしゅん)のことである。その季語が「初春」「仲春」「晩春」の三ヶ月にわたり適用される場合である。

同じ季節かと思うと異なる季節の季語の場合がある。

たとえば・・・ツバメは春 ツバル巢 は 夏 蛙は春 アマガエル は 夏 蜂は春 蜂の巢は夏 という具合である。

<俳句豆知識>

昨日の続きです・・・心ある俳人はこれを聞いて落胆したでしょう。その年の12月から翌年の4月にかけて、俳句文学者・山本健吉が「俳句は挨拶、滑稽、即興だ。俳句という文芸には固有の方法があるのだ」と反論したのです。直接の反論ではなかったが、結果として反論したことになる。

これに俳人たちは飛びついたのです。「そうだよ。俳句は挨拶、滑稽、即興だ」山本健吉の俳論にすぎた。すぎるよりほかなかったのです。山本健吉の俳論は、いまだに誰も否定していませんし、それを超える俳論は出ていません。

<名句鑑賞>

ところてん煙のごとく沈みをり 日野草城

「ごとく」は俳句には使うな・・・と指導される「やうな」も同様である。

それは、いま詠もうとしている対象が「例」にだされたモノを超えることがほとんどないからである。だが「なるほど」と納得できる場合はよろしい。「煙のごとく」は納得のケース。日野草城は「煙のごとく」で後世に名を残したとっていい。

<滑稽の作法> 【文字に発見】

文字通り丘を引きずる蚯蚓かな 健

蚯蚓は虫偏に「丘」 虫偏に「引」と書く。逆に対象から文字にたどりつく可笑しい・・・もある たとえば

蟾蜍(ひきがえる)字も難しき面構え 健 がそれである。

<「滑稽俳句協会報」より>

にんげんにできない速さかたつむり (広瀬遊亀男)

せまい日本だからゆつくりで虫は

<八木 健の365句> 土用浪音の遅れてうちかへす

< 季語の蘊蓄(うんちく) > 「春めく」「春深し」

「春めく」は環境がようやく春らしくなった頃をいう二月半ば頃だろうか。「春きざす」はそれより早い時点の季語。春深しの前に「春闌(はるたけなわ)」がある。それは「春爛漫」。そのあと「春更く(はるふく)」がある。「春深し」のあと「春の果」になるから「行春」を「春惜しむ」のである。「行く」を「逝く」とも書く。

< 俳句豆知識 >

「俳句には「滑稽・挨拶・即興」という固有の方法がある」

・・・山本健吉の論は生きているはずですが・・・挨拶、滑稽、即興を誰もやらない。

滑稽なんてやったら俳句雑誌に載せてもらえない。世の多くの俳人は俳句は真面目なものだと思ひこんでいるからです。そして、旧態依然の俳句界を誰も変えようとしません。桑原武夫の指摘した状態が続いているわけです。ちなみに、広辞苑では「俳句」を「滑稽な句」と定義しています。この10年八木健が滑稽を掲げて活動しているので雑誌「俳壇」で滑稽を特集したり、「俳句界」で「笑いのある俳句」募集したりするようになった。

去る4月11日に愛媛県大洲市でしゃくなげ祭俳句大会があり、八木健が講演した。「滑稽俳句術」というA3一枚の資料で滑稽句の作り方を伝授した。「衝撃が走った」とのことで「来年も講演してください」と主催者が即座に決めた。私は滑稽を全国的には展開しているが愛媛の方々には十分に伝わっていない。

「滑稽俳句術」は、この二・三年、無料で、配布している。これまでに・・・3000枚ほどお送りした。

あて先を書いて、返信用切手を貼り「滑稽俳句術希望」と書いてくださればお送りします。

〒791-2103 伊予郡砥部町高尾田 滑稽俳句協会 です。

< 名句鑑賞 >

飛ぶことを思ひ立ちたる天道虫 古館麦青

擬人化の句である。俳句は断定してこそ・・・である。飛ぶことを思ひ立ちしか天道虫では駄目なのである。それでは傍観者である。思ひ立ちたる・・・は自身が天道虫になってこそ言える表現なのである。

< 滑稽の作法 > 【文字に発見】

尺取やメートル法の世を生きる

敗戦国日本にメートル法なんてものが強制されて・・・実はこれが最大の負債となった。250 平米なんていってもだれもわからない。デジタルだからである。「ひと坪」は畳二枚というアナログだから・・・誰でもわかる。余談になってしまったが、尺取虫が夏の季語である。尺取で一句出来ないものかと思ったとき、何万年も生きてきた虫はメートル法なんて糞食らえだろう・・・と思ったのだ。

<「滑稽俳句協会報」より>

見上げれば肩も凝ります藤の花 (伊藤浩睦)

肩凝りのあとリストラの肩叩き・・・かも

<八木 健の 365 句> 息白く子らは吹出しマークつけ

<山口誓子の 365 句> 渦潮を落ちゆく船の姿して

愚陀佛庵通信 10-4-23

<季語の蘊蓄(うんちく)>

俳句を始めたがゆえに出会った季語には実際には見たことがない・・・というのも多い。

「乗込み(のっこみ)」(春) もそのひとつ。魚が冬籠りを終えて、深い所から浅いところへ移動し始めることをいう。これは浅瀬に餌をあさりにくるのであるが、この時期は産卵期とだいたい一致していて、雌を追って雄も移動し、産卵した上に精液をふりかける。釣り人はこの「乗込み」をねらって釣る

<俳句豆知識>

「滑稽俳句協会」について ご説明しましょう。

平成 20 年 8 月に発足しました。発足時の会員は 120 名。

会長は八木健。目的は「平成の滑稽句を後世に残す」

失われたままになっている滑稽を俳句にとりもどすこと。

明治 34 年に佐藤紅緑が「滑稽俳句集」を編んで以来、滑稽をテーマにした 句集は出版されていなかったの、微苦笑俳壇に掲載した 1500 句を中心にして「平成の滑稽」を出版した。107 年ぶりである。

協会は「月刊の協会報」とホームページで展開しています。

ホームページは「滑稽俳句協会」で検索できます。ぜひ一度ごらんください。

< 名句鑑賞 >

愛されずして沖遠く泳ぐなり 藤田湘子

泳いでいるのは 作者自身である。男性である。沖遠く・・・なぜなのか 涙を見せたくないからである。遠くに泳いでゆくうちに悲しみがうすらぐかも知れぬ。あるいは戻ることが出来ずに、死ぬるかも知れぬ。さまざまな思いが透けて見える一句である。愛してくれなかった 作者を悲しませたのは 男か女か・・・おんな では当たり前すぎて、俳句にしたとしても 痴話喧嘩と相違ない・・・とすると「男」ということになる。湘子はこの時期、師の水原秋桜子と対立して冷遇されていた。

< 滑稽の作法 > 【文字に発見】

串の字は象形文字よおでん食ぶ 健

「串の字は象形文字よ」は口語体である。会話調である。川柳はすべて 会話調であるからこの句は川柳めいているが俳句である。「よ」で切っているからである。串の字は象形文字とおでん食ぶ としたら説明的で より川柳に近くなってしまう。この句は「文字に発見」としたが おでんを見ていて串の字に思い至ったのであるから 逆である。滑稽句は つぶやき・・・などの会話調を使うとつくりやすい。

< 「滑稽俳句協会報」より >

去年の巢のリフォーム急ぐつぶくらめ (井野ひろみ)
この頃やつばめ社会もエコブーム

< 八木 健の 365 句 > さくら貝プラトニックラブの浜

< 山口誓子の 365 句 > 永き日を千の手載せる握る手垂らす

愚陀佛庵通信

10-4-27

< 季語の蘊蓄(うんちく) > 春蝉 はるぜみ・・・蝉は夏の季語だが 「春蝉」という季語がある。本州 四国 九州 と広く分布していて 多くは松林の中に住んでいるので「松蝉」とも呼ばれる 保護色なので 松の幹にとまっていると なかなか見つけることができない

< 俳句豆知識 >

滑稽俳句協会・・・について

俳句に失われた滑稽を取り戻すこと。

平成の滑稽を 後世に残したい・・・これが 協会設立の目的である。ホームページで

活動を公開するほか 月刊の協会報を発行している。会員は毎月 三句を投句できる。
必ず掲載される ホームページのデータベースには 毎年 50 句を登録できる。
会員の名で 検索できるから句集だすよりいいかも。これで年会費が 5000 円とは 安い。
月額にすれば 400 円 喫茶店のコーヒー 一杯分 である。
投句はしないが「読むだけ」という会員も多い。それでも結構です。
入会ご希望の方は 郵便振替 でお申し込みください。
振替口座番号は
01600-3-130892 よろしく お願いします。

< 名句鑑賞 >

日盛りに蝶のふれ合ふ音すなり 松瀬青々

俳句は誇張であるが・・・誇張は大げさにいうことではない。感じたままを書くと結果として「誇張」になるのである。ただし・・・読者が そんなことがあるかも・・・と共感、納得するほどのものがよしい。

< 滑稽の作法 > 【文字に発見】

蛙てふ文字蛙の字に潜む

土の字を重ねて 田の字に組み合わせると蛙となる。その蛙に潜んでいるのが蛙なんですね。

< 「滑稽俳句協会報」より >

噴水の投げ遣りとなる高さかな (西 をさむ)

噴水の初めは直径で行で

< 八木 健の 365 句 > 枯菊を焚く咽せながら泣きながら

< 山口誓子の 365 句 > 春潮に飛鳥はみな子持鳥

最近の八木健

去る 24 日 スノーボードの施設 「アクロス」で コンサートがあって 司会をした。
そのために 司会用のタキシードを新調。 その気になるには衣装から・・・である。
かぐや姫の「神田川」の作詞で有名な 喜多條忠 さんもご参加。
凄いトークショー 決して「うまく話そう」としないが自然体で 聞かせる。
最近「演歌」を書いている。 そのために 分厚い歌謡全集を三回 書き写したとのこと。
プロはアマチュアとどこが違うのか、しっかりわかった。小学 3 年から 6 年までに広辞苑を読破したとのこと・・・女房逃ゲレバ猫マデモ という自伝小説もヒットしている。
誰かに会うということは 影響を受けるチャンスを受かるということである。

コンサートを企画した 豊田省吾 さんは 少年のような中年で・・・最近私は 人に会って感動することが多いのだが・・・。

<季語の蘊蓄(うんちく)> 野遊(のあそび・春)・・・ピクニックのことである
ピクニックも季語であるが 歳時記では 野遊 の傍題になっている。漢字で書いたほうが俳句らしくなる。逆に 「ボートレース」の傍題に 短艇競漕 (たんでいきょうそう・春) があるが 俳句にするとき 短艇競漕 では古臭い表現と感じるだろう。

<俳句豆知識>

俳句豆知識 句会について 俳句は 「読む楽しみ」「創る楽しみ」「語り合う楽しみ」と 三種類の楽しみがある。

読む楽しみは 素晴らしい作品に出会う楽しみである。創る楽しみは 苦しみながらも俳句が出来たとき、それも 年に数句しか出来ないような よい作品が出来たときはうれしいものである。

語り合う楽しみは「句会」である。私は複数の句会に顔を出している。句会の楽しさは「作者が不明のまま句を俎上にあげてなんだ腹蔵なく批評できるからである。批評を終えた時点で作者が 「実はその句の作者はワタクシですと名乗るから愉快。

毎週火曜日に愚陀佛庵で開催している句会は初めてご参加という方も多いが何年も前から・・・参加しているような気分になれる 先週、今週の二度 シアトル在住の男性で、石居夕暉さん(73歳)がご参加。

石居さんの昨日の句は

でこぼんのじゅわしゅわ口に一杯の

高点句となった。日本に里帰りして、でこぼんの ジューシーなのに驚いたとのことで・・・。石居さんは 日本に二週間滞在 念願の句会に出てよかったと感想。句会の面々も別れがたい思いを抱いたのだ 句会の楽しさは 語り合う喜びである。

<名句鑑賞>

絶壁に眉つけて飲む清水かな 松根東洋城

ワタクシは この句を「説明と描写のちがい」の例として 使っている。今日午後 愛媛大学の「俳句学」のテキストに この句をとりあげる

岩清水のどの乾きをうるほせる 、、これを

四つに這ひ岩に顔つけ飲む清水 として

それよりも 絶壁に眉つけて飲む・・・がよいのだと

<滑稽の作法> 【文字に発見】

蟾蜍字も難しき面構へ

ひきがえるじもむずかしきつらがまえ 文字を面構えと 重ねた可笑しさ

<「滑稽俳句協会報」より>

楽しげに不便をかこちキャンプ村 前川敏夫

缶切りとマッチ忘れた思い出も

<八木 健の 365 句> 結局は野辺に捨てられ男郎花(おとこえし)

<山口誓子の 365 句> 尾捌きのがおのおの違ふ鯉幟

愚陀佛庵通信

10-4-29

<季語の蘊蓄(うんちく)> 硯石取る すずりいしとる・・・春の季語

干潮を利用して海底から硯石を採取するのである。土佐の海で硯石を採取したと古書に記述あり。高知県の中村市の「土佐硯」とさけん は、顕微鏡で見ると、石の表面が中国の端溪と酷似していて 墨がよく磨れる。

<俳句豆知識>

俳句の世界・・・を知るには「俳壇年鑑」が便利である。

全国の俳人や結社の住所録を兼ねた 作品集であり 最近の俳句をめぐる座談会。各種の俳句賞の情報が掲載されている。全国をいくつかの地域に分けて、その地域で知られた俳人のこの一年の代表句を批評する欄もある。八木健の句も批評の対象となった。三句のうち的一句は「雪女郎抱いて全身凍傷に」で この批評が面白い「雪女郎が男のぬくもりに溶けてゆくというのでは当たり前。超えてはならぬ法(のり)を犯した男の罰はすさまじい」なんだと。

<名句鑑賞>

天使魚もいさかひすなりさびしくて 水原秋桜子

天使魚はエンゼルフィッシュ のこと。一度は使ってみたくなる お洒落な「夏」の季語である。句の可笑しさは、天使のプラスイメージに マイナスの「諍い」を 組み合わせたところにある。また「も」を使って「人間」の「いさかい」を前提としている。作者は自身の 諍い の醜さを天使魚に見たのである。

<滑稽の作法> 【文字に発見】

立冬や尺貫法で五合飲む 健

リットルをリットウ と発音するところから 思いついた。厳密には メートル法で・・
ということになるのだが。

<「滑稽俳句協会報」より>

紙魚(しみ)なげくほどの歳時記なれどボツ (坊野留吉)

悪いんじゃないか歳時記の紙の質

選者の八木健への直訴めいた句である。紙質に問題ありと受けながした。

<八木 健の 365 句> こぼしつづ蜆(しじみ)を計り蜆売

<山口誓子の 365 句> 双眼鏡遠き薊(あざみ)の花賜る

愚陀佛庵通信

10-4-30

<季語の蘊蓄(うんちく)> 亀鳴く・・・実際に鳴くわけではないが
古くから春の季語とされている。亀鳴く・・・などという季語を使いこなすのは至難のワザで
ある。歳時記には「艶な季語」として出ているが、現実感がない。
拙句に パソコンは根つから苦手蚯蚓鳴く がある 秋の季語で「蚯蚓鳴く」もある

<俳句豆知識>

俳句は溢れている。

町を歩いても句碑があり 新聞を開けばどこかに俳句がある。しかし・・その句の前に立
ち尽くすということは「マレ」である。

ところが句の前に立ち尽くすということがある。ホンモノの俳句に出会ったときである。
松山市の中心部に 大正時代に建てられた洋館がある。萬翠荘である。この二階に
全国の主要 100 結社の主宰の代表句が展示されている。直筆の色紙である。

句集を何冊も出して お弟子が 100 人もいるような先生の 代表句だからどこかひき
つける もがある。1 時間 30 分ぐらいかけて 書き写してゆく俳人らしき方も・・いる。
書店に各種の俳句の本は並んでいるが 直筆の色紙に代表句を書いた本はない。だから、
萬翠荘の二階は「俳句の殿堂」とでもいうべきところなのである。

ワタクシには無駄な時間というものなくなった。

ヒマさえあれば展示された 100 句を眺める毎日である。

<名句鑑賞>

ふるさとの沼のにほひや蛇苺 水原秋桜子

俳句は上五で切るか 下五で切ることが多いがこの句は中七で切れている。

思いが先行するとういう書き方になるのだろう。しかし・・中七で切るとお洒落な感じ
になるものである。

ありきたりの表現をしないということがオリジナリティーの到達点である。

<滑稽の作法> 【大げさ】

野原大学音楽学部草笛奏法研究生 健

草笛がうまく吹けない・ということを大げさにいうと可笑しい

<「滑稽俳句協会報」より>

蝸牛空き巣狙いが心配で 麻生やよひ

蛞蝓(なめくじ)の身軽や家を置き去りの

<八木 健の 365 句> 里帰りとは大朝寝することか

<山口誓子の 365 句> 三方壁そこへ入り来し碧揚羽